〔衛生動物 Vol. 24 No. 2 p. 123~128 1973〕

日本産ゴキブリ分類ノート V.

近年わが国に侵入しつつある3種類について

朝比奈 正二郎

国立予防衛生研究所衛生昆虫部 (東京都品川区上大崎)

(受領: 1973年4月26日)

Taxonomic notes on Japanese Blattaria V. On three recently introduced Blattellid species

Syoziro ASAHINA

Medical Entomology Department, National Institute of Health,
Shinagawa-ku, Tokyo

元来熱帯に繁栄しているゴキブリ類が我が国に移入されて定着する例は、チャバネゴキブリ、ワモンゴキブリをはじめとして、強く関心をひく問題である。この2種類は既に広汎に地球上にひろがり人類の生活に密着して、遂には元来の自然棲息地が不明になってしまった。一般に家住性ゴキブリ類の渡来の記録を正確にしておくことは重要であろうと思う。以下に、おそらく第2次大戦以後に日本の領域に侵入し、あるいは定着し、あるいは定着しつつあることが近年はじめて知られるようになった3種類のゴキブリを記録する。

1. *Supella longipalpa* (Fabricius 1798)

チャオビゴキブリ (新称)

Blatta longipalpa Fabricius, Ent. Syst.

Hafniae 1798, p. 185 ♂

Blatta supellectilium Serville, Hist.

Nat. Ins. Orth., p. 114 (♂ ♀ Mauritius)

Supella longipalpa Princis, 1969, Orthopt. Catal., Pars 13, Blattellidae, p. 917 "Zircumtropisch, wahrscheinlich von Afrikanischer Herkunft"

本種は久しく、*Supella supellectilium* として知られた屋内害虫であるが、他にシノニム種名が更に10例ある。最初の命名はマダガスカル島の東方の孤島モウリシ

ヤス島よりのもので、次いで西インド諸島 (Serville, 1862) より記録され、キューバでは極めて普通であるとされた。おそらくアフリカ種で奴隷船によってひろがったもので、上記のキューバから北米フロリダ州の Miami に1903年入り、フロリダから果物船によって更に全米各地にひろがり、今日では北米ではフィラデルフィア、カリフォルニア、ネブラスカを含む範囲に定着している。最近の報告では、フランス (Van Herrewwege, 1967) やスイス (Régnier, 1970) にも侵入するに至った。

今日ではオーストラリアを含む世界の熱帯亜熱帯にひろがり、手許にもインドカルカッタ、ニューカレドニア、バンコックなどの標本がある。日本では今まで全く知られていなかったが、東京検疫所の楠井善久氏が1972年秋、小笠原父島で採集されたものを初見とし、同氏によれば、父島の民家では1972年9~11月の間に10頭以上採集され、小笠原事務所でも2頭を発見、更に4年前 (1969) に得られた標本もあったという。今後我が国の他の地域への付着侵入が予想されるものである。

形態の詳しい記述は省略し、成虫♂♀とそれの尾端の特徴図 (Figs. 1-3) 及び成虫幼虫の写真を示す (Figs. 13-15)。♂は長翅で淡褐色を呈し、♀は前翅端が腹端に達せず、体翅には♂よりも濃い褐色斑があり、幼虫も一見♀に似て腹部が円く、中・後胸にそれぞれ黄白の横条がある。英名の Brown-banded cockroach というのはあまり適当でないようにも思うが、和名にはとりあえずこれを訳して付けた。

Figs. 1-3 *Supella longipalpa* チャオビゴキブリ

- 1, ♂ 尾端背面, Distal abdominal segments, dorsal, KOH-macerated specimen
 2, ♂ 尾端腹面, Hypandrium, ventral, KOH-macerated specimen
 3, ♀ 尾端部背面, Distal abdominal segments, dorsal, dried specimen

2. *Lobopterella dimidiatipes* (Bolivar 1890)

フタテンコバネゴキブリ (新称)

Temnopteryx dimidiatipes Bolivar, 1890,
 Anal. Soc. esp. Hist. nat., 19, p. 300,
 t. 1, f. 1. (Philippine)

Lobopterella dimidiatipes Princis, 1969,
 Orthop. Catal., Pars 13, p. 856 "Hawaii,
 Marquesas, Tahiti, Samoa, Fidschi, Neu-
 Kaledonien, Philippinen, Sumatra, Ma-
 dagaskar, Seyschellen, Sensibar, Tan-
 zania"

本種は最初 *Temnopteryx* の種としてフィリッピンより記載され, その後 *Loboptera* 属の1種として, Princis (1957) が *Lobopterella* 属を設定するまでひろく引用された. 本種のシノニムとしては6種名あり, 同属の別種にはスンバ島産の *pallipes* Princis (1957) があるだ

けである.

小型, 黒色, 短翅の種類で, 本邦からは未知であったが, 加納六郎博士が1955年西表島で採集されたものを最初とし, 1962年には筆者も沖縄本島で多数の個体を採集し, その後宮古島, 石垣島及び台湾産の標本を得た. 太平洋地域にひろく分布するもので, 上記の Princis (1969) の表示にあるように, 各地の島嶼に産する傾向が強いがアフリカ大陸にも入っているらしい.

琉球諸島には果たして以前から分布していたものか, 又は近年他地域から移入されて定着したものかは不明であるが, 沖縄では海岸の人家近くの地表に多数の個体が発見されるので, 他よりの移住種である可能性を思わせる.

Princis (1957) は本種の原因地はおそらくインドネシアのどこかで, そこから貿易によって広がったものであるだろうと言っている. 形態を略記すれば次のようである.

体長♂ 9 mm 内外, ♀ 10 mm 内外, 漆黒色で短翅,

Figs. 4-8 *Lobopterella dimidiatipes* フタテンコバネゴキブリ

- 4, ♀ 前翅, Forewings;
 5, ♂ 尾端部背面, Distal abdominal segments, dorsal, KOH-macerated specimen;
 6, ♂ 尾端部腹面, Hypandrium, ventral, KOH-macerated specimen;
 7, ♂ 生殖鉤, Phallosome;
 8, ♀ 尾端部背面, Distal abdominal segments, dorsal, dried specimen.

♂♀ほぼ同型同色彩, 前胸部から腹端節に至るまで体の周囲は黄白色に縁どられる。前翅は小瓦片状で, 基部の中央に円い黄点があり, この黄点はその直下の中胸背板の黄紋に重なっている (Fig. 4)。後翅は退化して黄白微少なものが前翅の下に隠されている。第2腹節の背面にも1対の横位の小黄紋がある。成虫♂♀尾端の特徴は図に示す通り (Figs. 5-8)。

幼虫では, 中胸の前半は黄色となり, 後胸の左右縁に黄色大紋を有し, 第2腹部の黄紋は大きい (Fig. 18)

手許の標本を記録すれば次の通り: 1♂1♀, 網取, 西表, 17. VII. 1955, 加納六郎; 1♀, 与那, 沖縄, 29. V. 1962, 朝比奈; 1♀, 同, 1. VI. 1962, 朝比奈; 1♀, 石垣市, 5. VI. 1962, 朝比奈; 1♂2♀, 3幼虫, 徳山, 石垣島, 9. VI. 1962, 朝比奈; 1♀, 荒川, 石垣, 13. VI. 1962, 朝比奈; 2♂, 大浜, 石垣, 13. VI. 1962, 朝比奈; 1♂, 宮古島, VI. 1962,

池田昌彦; 2幼虫, 白浜, 西表, 3. X. 1963, 宮本正一; 1幼虫, 祖内, 西表, 8. X. 1963, 宮本正一; 1幼虫, 名護, 沖縄, 宮本正一; 1幼虫, 川平-吉原, 石垣, 13. X. 1963, 平島義宏; 1幼虫 浦-オモト岳, 石垣, 山崎柄根; 2幼虫, カリマタ, 宮古島, 23. XI. 1963, 緒方一喜; 1♀, クラル, 台湾, 7. VII. 1964; 2幼虫, 陽明山, 台北, 25. V. 1965, 宮武頼夫; 1♀, クラル, 台湾, 3. VII. 1965, 朱耀添。この機会にこれらの標本を提供された方々に対しては感謝の意を表したい。

3. *Imblattella panamae* (Hebard 1919)

パナマゴキブリ (新称)

Neoblattella panamae Hebard, 1919, p.

56-58, pl. III, f. 12♂ "Type-♂; Rio Trinidad, Panama, March 19, 1912(A.

Figs. 9-12 *Imblattella panamae* パナマゴキブリ

- 9, ♂ 尾端部腹面, Hypandrium, ventral, dried specimen ;
 10, ♂ 尾端部腹面, Hypandrium, enlarged, alcoholic specimen ;
 11, ♂ 生殖鉤, Phallosome ;
 12, ♀ 尾端部背面, Distal abdominal segments, dorsal, dried specimen.

Busck) ; allotype ♀ : Porto Bello, Panama, Feb. 15, 1911 (A. Busck) (U. S. Nat. Mus.)”

Imblattella panamae Princis, 196 9Orthop. Catal., Pars 13, p. 796 “Panama”

数年前より東京で洋蘭の鉢を購入した場合に、1種の小型のゴキブリが付着していることを知った。成虫幼虫共に見られ、一見東南アジアにひろく分布する野棲種であるマダラヒラタゴキブリ (*Onychostylus notulatus* Stål) を思わせるものであるが、明らかにそれと異なるもので、アジア地域のゴキブリには該当するものがないように思えた。そこで Lund 大学の Princis 博士に標本を送って同定を依頼したところ、中南米に産する *Neoblattella* 群の中の *Imblattella panamae* (Hebard) に当たると回答があった、形態の特徴を略記すれば次の通り。

体長♂♀10.5mm 内外、前翅長♂♀10.5mm 内外、淡褐色扁平の種で、色彩斑紋には♂♀大差なく、前胸の中央には不規則な多数の小斑と、後方には横位の1褐斑がある。前翅の基方近のく Anal field にも黒褐斑がある (Figs. 19-20)。

♂の腹端部は挿図 (Figs. 9-11) の如く、肛上板は単

に丸いが、肛下板 (hypandrium) には特異の1対の突起物と1対の尾肢とがある。この小突起は原記載では単に尖っているように画かれてあるが、その先端は、手許のすべての標本で、二又している。♀の尾端はひろく円形 (Fig. 12)。

幼虫では体表面に斑紋多く、前・中・後の胸節の各後縁を横切るような合計3横条をみとめる。腹部背面にも褐色紋多く、特に第5腹節付近のものが発達する (Fig. 21)。卵鞘は分離して産下される (Fig. 22)。

この種は元来中米パナマより記載されたもので、最初の♂♀以来他地域からの記録はない。現在我が国内の各地の温室で栽培されている洋蘭は中南米産のものが少なくないので、おそらく植物体に付着して直接か又は他地域を経て間接に、我が国にもたらされたのであろう。広く国内各地の温室を調査したわけではないが、蘭栽培者の意見をきくと、昭和35年(1960)頃から、これと思われるものを見ているというので、おそらく比較的近年に移入されたのであろう。念のため植物検疫関係者にも連絡したが、目下の所では実害が認められないので特にとり上げることは考えていない由であった。現在筆者の知る限りでは、産地は東京だけである。

Figs. 13-15 *Supella longipalpa* (Fabricius) チャオビゴキブリ, 13, ♂; 14, ♀; 15, larva.
 Figs. 16-18 *Lobopterella dimidiatipes* (Bolivar) フタテンコバネゴキブリ, 16, ♂; 17, ♀;
 18, larva.
 Figs. 19-22 *Imblattella panamae* (Hebard) パナマゴキブリ, 19, ♂; 20, ♀; 21, larva; 22,
 egg-sheath.

追記：本稿脱稿後，大阪検疫所の高橋純雄氏より小笠
 原父島産の *Supella* 属のゴキブリについては，同氏が
 1969年に発見され，検疫衛生，第7巻22号1969，に記録
 された旨の報知をいただいたのでここに付記する。

文 献

- Hebard, M. (1919) : The Blattidae of Panama. *Mem. Amer. Ent. Soc.*, 4 : 1-148+VI, 6 pls.
 Princis, K. (1957) : Zur Kenntnis der Blattarien des Kleinen Sundainseln. *Verh. naturf. Ges. Basel*, 68(1) : 132-159.

- rincis, K. (1969) : Orthoptorum Catalogues, Pars 13, Blattariae, Epilamproidea, Fam. Blattellidae, 713-1038.
- Régnier, J.-O. (1970) : *Supella supellectilium* Serv., une nouvelle Blatte domestique en Suisse. *Mitt. Schweiz. Ent. Ges.*, 43(1) : 59-63.
- Rehn, J. A. G. (1945) : Man's uninvited fellow traveller—The cockroach. *Sci. Month.*, 1945 Oct., 265-276.
- Van Herrewege, Ch. (1967) : *Supella supellectilium* Serv., une espece de Blatte domestique qui semble se repandre dans la region Lyonnaise. *Bull. Mensul Soc. Linne. Lyon*, 36(9) : 394-406.

Summary

It seems worth to record newly introduced cockroach species from faunal as well as pest-control point of view. During recent years the following three Blattellid species were found in our faunal limits.

1. *Supella longipalpa* (Fab.) (= *supellectilium* Serville)

This well-known tropical pest was found in

1969 in the houses of Chichijima of the Bonin Islands.

2. *Lobopterella dimidiatipes* (Bolivar)

This soil-surface cockroach has been known from many Pacific Islands. In Japanese territory it was first discovered by Prof. R. Kano in 1955 in Iriomote Island, the Yayeyama-group of the Ryukyus. Then, from the other Ryukyu Islands, *i. e.*, Okinawa, Miyako, Ishigaki by my colleagues and myself. There are also specimens from Yang-ming-shan, near Taipei and Kuraru, southern Taiwan, the latter taken by Dr. Chu.

3. *Imblattella panamae* (Hebard)

This is an indigenous Panamanian species. In recent years many individuals were detected from the pots of tropical orchids. In Tokyo area this cockroach is said to be not uncommon in the greenhouses where tropical orchids are cultivated, probably imported directly from Central America, or indirectly, from nurseries of orchids or tropical plants in the other part of the world.

A brief description for each species were given together with illustrations of taxonomic characters.